

納経塔の中で最も多いのは「奉納大乘妙典六十六部日本廻国供養」と刻まれた、廻国塔とも呼ばれる供養塔です。

釈迦滅後五十六億七千万年後に弥勒菩薩がこの世に下生するまで、大乘妙典の法華経を日本の各国霊場に保存を図る目的で六十六カ国を廻国して納経するというものです。

本郷上「土俵河原」と呼ぶ所に「奉納大乘妙典六十六部供養塔」・同石面右高に天下和順・左高に日月清明・東石面に寛政十二年庚申・西石面に三月吉日その真下に行者新八と刻まれた、町では珍しく立派な納経塔が一基見られます。

日本廻国大願成就を果たした行者やその助力者が記念に建立したものです。

全国を廻国することは、自らの脚が頼りのことで、全くの大事業であったことと想像されます。

地上高二メートルにも及ぶ廻国塔の周囲が荒れ果てているのが残念に思われます。

27 題目塔

題目塔は、日蓮宗系の寺院に必ず見られるといわれます。

日蓮宗では「法華経」を最高の経典として「妙法蓮華経」

を御本尊と仰いでいます。

そして「南無妙法蓮華経」の七字の題目を唱えることを日常最も大事な実践行であるとしています。

相川観音（会津札所二十二番）境内裏山に町では唯一の“題目塔”が見られます。

享保七年（一七二二）の造立で、刻字も風化が進みくずれていますが「妙法蓮華経塔」と確かに読むことができます。

七年の長さと同月をかけて現在の観音堂が、享保二年（一七二七）の秋に再建されていることから、題目塔は五年後に造立されたこととなります。

28 福光の富士浅間講の碑

“浅間講”とは、富士山に登って“浅間神社”に参拝し、仏道修行をする信徒のグループをいいます。

“浅間神社”は、旧官幣大社で祭神はコノハナサクヤヒメノミコト・ニニギノミコト・オオヤマツミノミコトとされています。

神体は富士山の八合目以上、垂仁天皇三年（前二七）の創建と伝えられます。

「福光の富士浅間講碑」は、集落の南に外れて路傍に立つ異様な形をした地上高二、二五メートルを越す自然石の